

特集

旧校舎 最後の登校日

3,100人が旧校舎に最後の別れ

5月4日・5日の2日間、中山中学校旧校舎開放イベント「旧校舎 最後の登校日」が行われ、多くの卒業生らが学び舎に別れを告げました。

このイベントは、「卒業生、保護者、地域の方など中山中学校に関わったすべての人に、旧校舎の最後の姿を見届けてほしい」と、町民有志による実行委員会（鎌上徹実行委員長）が企画・開催したものです。イベント中は、旧校舎完成時に撮影された建設記録映画の上映や給食で人気のあったデザートなどの販売、記念撮影のサポートなど様々な企画が行われ、来校者を楽しませました。

来校者は校内を自由に見て回り、旧校舎との別れを惜しむように、椅子に座ったり記念撮影をしたりと、旧校舎での最後の時間を思い思いに過ごしていました。



中山中学校校舎完成時の町報
(昭和43年4月号)

中山中学校は、昭和40年に長崎中学校と豊田中学校を統合して誕生しました。創立当初は、両中学校の生徒がそろって学習できる環境が整っていませんでした。長崎中学校を東校舎・豊田中学校を西校舎とし、生徒たちは別々の校舎で学校生活を送っていました。

中山中学校新校舎（現在の旧校舎）は、昭和40年から建設工事を開始し、43年に完成しました。総面積4971平方メートル、鉄骨づくり3階建ての校舎は、当時、中学校としては東北一の施設規模を誇りました。昭和43年4月には、東西両校舎の生徒が新しい校舎に移り、総勢686人の生徒たちが新校舎での学校生活をスタートさせました。

interview 01



写真左から
今野友男さん（土橋）、佐藤信雄さん（桜町）、
原 真一さん（中町）、鈴木孝始さん（金沢）

我々が中学生だった当時は、男性の先生が交代で宿直をしていました。

担任の先生が宿直のときは、一緒に宿直室に泊めてもらって夜遅くまで話をしたり、定期テストの前などは苦手な教科を付きっきりで見てもらい、気付いたら20時をまわっているということもありました。先生方には本当に可愛がっていただきました。

今も連絡を取り合って、こうして集まれる仲間がいるというのは本当に幸せなことだと思います。仲間に出会ってくれた中山中学校には本当に感謝しています。最後に思い出の校舎に入ることができて良かったです。

中山中学校の沿革

- 1954年（昭和29年）
長崎町と豊田村が合併し、中山町が誕生。
- 1965年（昭和40年）
長崎・豊田両中学校を統合し、中山中学校創立。中山中学校校舎（現在の旧校舎）の建設工事が始まる。
- 1968年（昭和43年）
校舎が完成。東西校舎の生徒が移り、新校舎での生活が始まる。同年11月、体育館が完成。
- 2014年（平成26年）
中山町誕生60周年を迎える。町の重要事業として中山中学校新校舎の建設工事が始まる。
- 2015年（平成27年）
新校舎が完成。創立50周年の節目を迎える。
- 2016年（平成28年）
旧校舎の解体工事が行われる。